

TOUR DE HOKKAIDO 2006 NEWS

3rd.Stage 2006年9月16日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	西谷泰治	愛三工業	4:21:23
2	鈴木真理	ミヤタ・スバル	+0:00
3	エリック・ウォルバーグ	カナダ	+0:00
4	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:00
5	土井雪広	スキル・シマノ	+0:00
6	真鍋和幸	NIPPO	+0:00

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	鈴木真理	ミヤタ・スバル	55
2	西谷泰治	愛三工業	50
3	宮沢崇史	VANG	47
4	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	41
5	ダニエル・マッコーネル	オーストラリア	33
6	マリウス・ヴィズリアック	NIPPO	28

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	スキル・シマノ	38:54:11
2	カナダ	+3:47
3	ミヤタ・スバル	+5:57
4	愛三工業	+8:02
5	VANG	+8:16
6	オーストラリア	+10:41
7	ブリヂストン・アンカー	+13:22
8	NIPPO	+15:03
9	マトリックス	+19:59
10	ドイツ	+20:15
11	チェイニー・スタイベイ	+21:40
12	北海道地域選抜	+27:15
13	韓国	+33:53
14	中央大学	+33:55
15	日本大学	+34:13

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	西谷泰治	愛三工業	12:57:21
2	鈴木真理	ミヤタ・スバル	+0:06
3	ダニエル・マッコーネル	オーストラリア	+0:14
4	土井雪広	スキル・シマノ	+0:19
5	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:21
6	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:31

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井雪広	スキル・シマノ	26
2	辻善光	立命館大学	19
3	中島康晴	鹿屋体育大学	10
4	普久原奨	ブリヂストン・アンカー	9
5	エリック・ウォルバーグ	カナダ	8
6	橋川健	マトリックス	7

3rd.Stage 西谷泰治（愛三工業）が会心のステージ優勝を決めて、リーダーに

第3ステージは東神楽町役場前をスタートし、白金温泉、望岳台付近を通過して十勝岳温泉を巡り富良野市に入り、更に桂沢湖から三笠市総合運動公園にフィニッシュする今大会最も厳しい170kmのコース。

スタート直後から上りが始まるため、集団は少し落ち着いたスタートとなった。そんな中で最初に動きを見せたのはブリヂストン・アンカーだった。そこにマトリックスのエース、橋川健らが合流、5人の逃げを形成した。最初のホットスポットは橋川がトップで通過。タイム差は4分以上開く。集団はVANGと立命館大学が前を引く。立命館大学は、辻の山岳ジャージを守ろうとする動きだ。

最初のKOMは逃げていたグループが通過。2回目のKOMの上りで逃げグループは吸収されて、ここで12人の先頭集団が形成される。リーダージャージを着た宮沢崇史（VANG）は、後ろの集団に取り残された。KOMトップは土井雪広（スキル・シマノ）。山岳賞ジャージを着た辻は遅れていて、逆転されてしまう。

12人を追う集団はVANGが先頭を固



ツール・ド・北海道通算6勝目となる勝利をあげた西谷泰治（愛三工業）。第2ステージでの雪辱を果たし、個人総合時間トップに立った

めるが、タイム差は広がっていく。

そして、2回目のホットスポットは西谷泰治（愛三工業）がトップ通過。2位にダニエル・マッコーネル（オーストラリア）が入り、それぞれボーナスタイムを獲得した。3回目のKOMは2回目と同様に土井がトップで通過した。

先頭の12人は残り30kmで、アタックがはじまる。増田成幸（ミヤタ・スバル）



2つのKOMをトップで通過して、山岳賞ジャージを手にした土井雪広（スキル・シマノ）。個人総合時間でも4位に浮上した

がここで脱落し、フィニッシュは11人の勝負になった。

そして、三笠市総合運動公園のフィニッシュに最初に飛び込んだのは西谷。2位に鈴木真理（ミヤタ・スバル）、3位エリック・ウォルバーグ（カナダ）が入った。ボーナスタイムにより西谷がリーダージャージを獲得。ステージ2位の鈴木はポイント賞でトップに立った。

Next Stage 伝説のモエレ沼フィニッシュ。起死回生の逃げは決まるか？

第4ステージは、札幌のモエレ沼公園にフィニッシュする180km。細かなアップダウンに海岸線の横風地域と、ツールも終盤となって疲れた選手たちは酷なコース。しかし、それはとりもなおさずアタックポイントの多いコースということでもある。

第3ステージで優勝争いに3人を残したスキル・シマノが波状攻撃でリーダーチーム愛三工業を崩壊させることが出来るかが最大の注目点だ。

「ここまでは思い通り。リーダージャージは最後に着ていければいい。明日もうちが有利」とスキル・シマノの坂東監督はあくまでも強気の発言をしている。

一方、愛三工業の横井監督は「ジャー

ジを取られたり、取り返したりで、みんな疲れているから」と首尾防衛には不安をのぞかせている。果たしてどちらの発言が本当なのか、あすのレースが決着を付けてくれるはずだ。

また、山岳賞に関しては最後の争いになる。スキル・シマノの土井雪広に奪われたものの、立命館の辻善光もまだまだあきらめてはいない。土井がプロの面目を保てるかも見どころだ。

またモエレ沼フィニッシュといえば、3年前の福島晋一（VANG・今年不参加）の大逃げステージ優勝を思い出す人も多いだろう。「逃げる男」の再来はあるのか。選手たちにはぜひ最後まであきらめない走りをしてほしい。



繰り上げのポイント賞ジャージを着て走った鈴木真理（ミヤタ・スバル）はステージ2位に入り、第4ステージでは真のポイント賞ジャージを着る